

囲いやま森の会 活動記録

2008.2.20 野口 功

日 時: 2008.2.19 (火) 10~12時 天気: 晴

記録・写真: 山田幸子

観察記録

冬の楽しみのひとつに、寒さの中で様々な工夫をして、生命を春へとつなげていく自然界の姿を見つけることがあります。また、夜空に目を向けてみると、1年で最も星が美しさを見せてくれる季節でもあり、星の観察という楽しみもあります。冬空というとまず思い浮かぶのは、冬の大三角：オリオン座のベテルギウス・おおいぬ座のシリウス・こいぬ座のプロキオンでしょう。おうし座の散開星団で、7個ばかりの星がひと塊になっているプレアデス星団（地球から400光年の距離にある）もまた素晴らしいものです。日本では古くから、「すばる 昴」の名で親しまれています。

宮沢賢治は「銀河鉄道の夜」のなかで、主人公ジョバンニが、新しい道を歩み出そうとするその行方を指し示すものとして、美しい星々を描いています。皆さんは、どの星あるいは、どの星座がお気に入りですか？ 昼は外で自然観察や作業をし、夜は星を肴に人生を楽しむ、というのもこの季節ならではのものです。

- キノコのホダ木をみていると、年輪に気づきます。年月とともに経験や知識を重ね、人間的な深みや魅力を増した人のことを、「年輪を重ねた人」ということがあります。年輪は、年に1層ずつ作られます。その幅は、年ごとの日照などの条件によって、広くなったり狭まったりします。まさに、育ってきた時代が想像できるようです。囲いやまのみなさんは、どのような年輪を重ねているのでしょうか？ きつと素晴らしいものですよ。
- コゲラは囲いやまでもよく観察できます。「ギー、ギー」という声、スズメと同じ位の大きさの鳥が木をつついていたら、それはコゲラです。樹皮に穴を開けて、中の昆虫やクモなどを食べます。営巣する穴は生木ではなくて、枯れ木に開けたものを使います。とても可愛い鳥です。
- シュンランの花芽が、はっきりしてきました。春が楽しみです。
- キノコ鑑定士 キノコの本を読んでいたら、面白い記事がありました。
キノコの森には色々な人間がいます。キノコのみわけに自信がない順番で、にわかキノコ狩り人・普通のキノコ狩り人・にわかキノコ鑑定士・本物のキノコ鑑定士・キノコの達人。
本物とは・・・(決してちかづいてきません・無愛想・ケチ・他人が採ったキノコを「毒キノコだー」とかいって横取りする・笑顔も見せず、ウンチクなど言わずに、迷惑そうに黙々とキノコを鑑定する)とのことです。
囲いやまのキノコの成長が待ち遠しいですね。私たちも、キノコ鑑定士に成長するのでしょうか？
- 自然界では、枯れ木や落葉だけでなく、様々なものがキノコによって分解され、きれいに掃除されています。森が成り立つためには、いろいろな菌類が大事な役割をしています。
- シモバシラが観察できます。サクサクという感覚は、なぜか子ども時代を思い出します。
- リュウノヒゲ(別名: ジャノヒゲ)には秘められた力があります。7~8月ごろ薄紫の花をつけますが、地下では根が膨れます。それを乾燥させたものが「麦門冬 バクモンドウ」という薬です。滋養強壮・鎮咳・去痰などの効用があります。花の季節が終わると、とてもきれいな瑠璃色の種子ができます。
- イヌシデの芽が目立ってきています。寒いとはいえ、春は少しずつ近づいています。

開花植物

草本 オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウ・コハコベ・ミドリハコベなど

実のついている植物 キツタ・マサキ・リュウノヒゲ・アオキ・ヤツデなど

鳥 ヒヨドリ・アオジ・コゲラ・シジュウカラ・メジロ・エナガ・ヤマガラ・シロハラなど

キノコ スエヒロタケ・ハチノスタケ・カワラタケ・アラゲキクラゲなど

囲いやまの森

2008.2.19(火) 山田幸子

春の芽生えを感じさせる陽気です。今日は「雨水」(二十四節気)、雪から雨に変わり、雪が融け始める頃。次は啓蟄です



南広場の低地



ヒメオドリコソウとオオイヌノフグリ



年輪



シュンランの花芽



コナラの新芽



イヌザクラの冬芽



イヌシデの芽



リュウノヒゲ 実



アオキ 実



朽木



シモバシラ



カイガラタケ



カワラタケ



サルノコシカケの仲間



菌類